

114  
A 5096  
1

新鴻稅務官瑞島長横尾平次

兩田所二三官告  
閣總理大臣大隈重信殿

親展

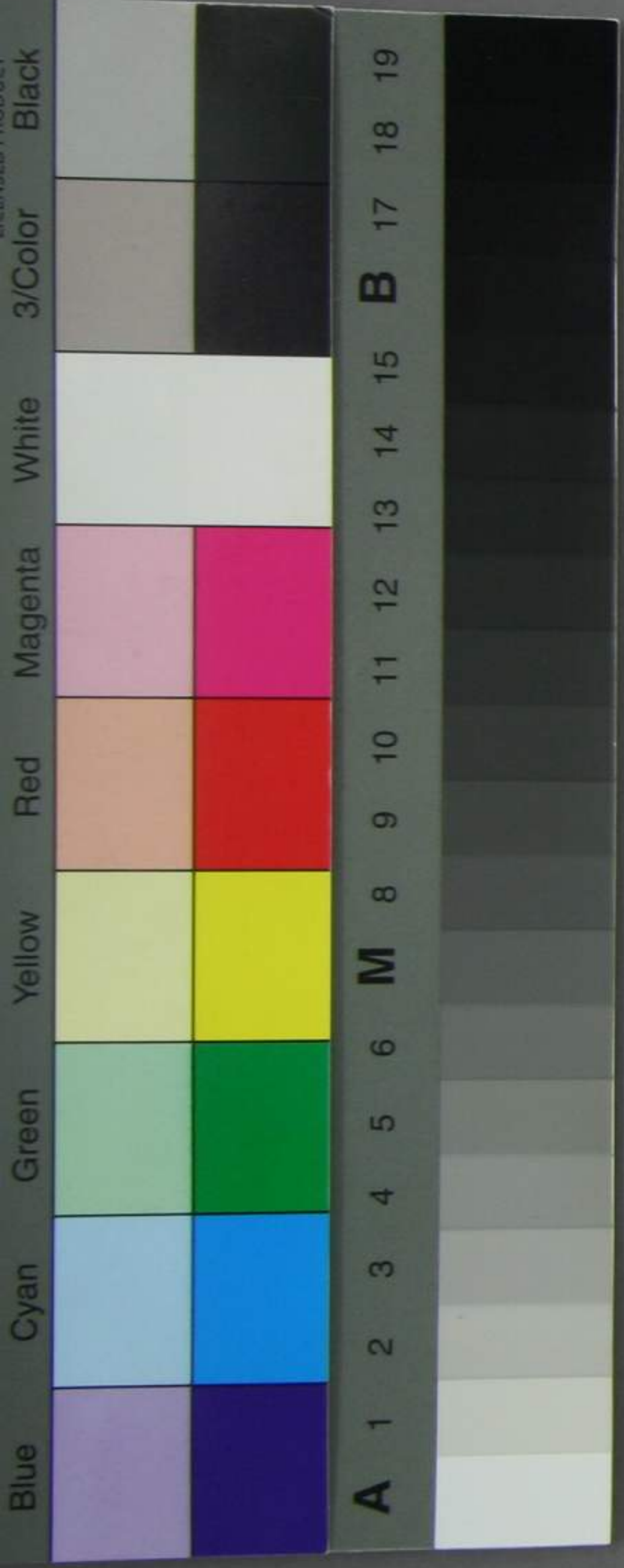
實ニ其意志ノ發動ヲ表明スルモノトス而  
シテ此ニ法律中前者ハ將來其存續擴張シ

ハ信賴的ハ其法數ヲ公滋



大藏省用

A 1954



114  
A 5096  
1

秘



水害地々祖特別處分法ハ曾テ岐阜愛知滋賀福井ノ四縣カ非常ノ震災ニ罹リシ際公布セラレタル法律ト其精神ヲ同クシテ山形秋田二縣ノ震災福井富山新潟等ノ數縣カ非常ノ水害ニ罹リシ時亦特別處分法ノ公布アリタリ惟フニ政府カ非常ノ災害ニ罹リシ人民ニ對シテ救恤ヲ施行シ或ハ納租ノ義務ヲ特免スル等ノ處分ハ政治的  
道義心ノ發動ニ外ナラスシテ彼ノ備荒儲蓄法及ヒ被害地々祖特別處分法ノ如キハ實ニ其意志ノ發動ヲ表明スルモノトス而シテ此ニ法律中前者ハ將來其存續擴張シ



水害地々祖特別處分法  
昭和十一年三月廿九日  
田中 龍雄

水害地々祖特別處分法  
昭和十一年三月廿九日

A 1957

努力ムルコトヲ要シ後者ハ非常ノ災害アル  
時ニ臨ミ特ニ其公布ヲ觀ルノ期アル一キ  
ヲ疑ハサレナリ然レニ備荒儲蓄法ニ依ル  
中央基金及ヒ府縣諸蓄基金ハ廿三年中改  
正ヲ經テ將來其増諸ヲ廢止シ現在ノ儲蓄  
金ニ付キ其利殖ヲ圖ルニ過キス而シテ非  
常ノ災害ハ頻年絶コルコト無ク或ハ救恤  
ノ資ニ充ラ或ハ地租ノ貸與補助ヲ為ス等  
特ニ巨多ノ金額ヲ要セリ故ニ今ヤ中央地  
方共ニ公儲金ノ剩ル者幾許モ無シ而シテ  
備荒儲蓄法施行ノ期將ニ本年ヲ以テ終ラ  
ントス此ニ於テヤ政府ハ當春更ニ罹災救  
助基金法案ヲ帝國議會ニ提出セリト雖氏

議會解散ノ為メ其通過ヲ觀ルニ至ラズ蓋  
シ罹災救助基金法案ハ備荒儲蓄法ノ繼續  
者ニシテ彼此ノ條項概シ其精神シ同フス  
ル者ナリ但備荒儲蓄法第六條第二号ハ國  
稅徵收法ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ之  
ヲ改正スルノ必要アリト雖氏暫ク之ヲ措  
キ先ツ國稅徵收法ノ不完地租徵收手續ノ  
不備ニ基因スル弊害ヲ陳述セントス  
新潟縣管内人民カ昨三十年ニ於テ非常ノ  
水害ヲ被ルヤ先ツ地租ノ徵收猶豫ヲ申請  
セリ國稅徵收法第七條ニ曰リ納稅人非常  
ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其被害調査ノ為  
メ時日ヲ要スルトキハ其間稅金ノ徵收ヲ

為サ、ルコトアルヘシト而シテ大蔵省ハ  
本條ニ関シテ内訓ヲ發セリ其第三條ニ曰  
ク納統人非常ノ災害ニ罹リタル為メ當該  
納期ニ統金ノ徵收ヲ為サ、ルハ地租ノ減  
免又ハ補助貸與ニ関スル如キ調査ヲ要ス  
ルニ當リ納期ノ到リタル場合ニ徵收ヲ見  
合スコトヲ得ルノ趣旨ナルヲ以テ豫メ期  
限ヲ定メテ猶豫ヲ與フルカ如キ處分ヲ為  
スヘキモノニ非スト今此内訓ヲ施行スル  
ニ方リ水害地ノ地租ハ如何ニ處分セウシ  
タルヤハ左ニ記述スル所ヲ以テ明瞭ナリ  
トス

第一 茲ニ或地域内ノ田地カ地租ノ納

期第三期(其年十二月十六日ヨリ翌年  
一月十五日限リ)前ニ於テ非常ノ水害  
ニ罹リタリトセシニ其内ノ幾部分ハ  
固ヨリ地租ノ貸與又ハ補助ヲ要スル  
モノアルヘシ而シテ府縣ノ地租貸與  
又ハ補助ニ関スル規則中ニハ被害者  
ノ資産ノ多寡ヲ調査シ土地家屋ヲ賣  
却スルニ非サレハ地租ヲ納ムルコト  
能ハスト認ムル者ニ限り貸與又ハ補  
助ヲ為スノ規定アリ故ニ被害町村ノ  
人民ハ其調査ヲ口實トシテ全町村内  
ノ地租ノ徵收猶豫ヲ申請ス斯ク全町  
村内ノ地租ノ徵收猶豫ヲ申請スル所

以ノモノハ町村内幾許ノ筆力實際水  
害シ被リタルヤラ數日間ニ調査スル  
ハ頗ル難スル所タリ否ナ調査ノ難キ  
ニ非ス其調査ハ實ニ町村民其人ニ對  
シテ不利益ナルヲ以テ實際ニ於テ之  
ヲ為サ、九ナリ而シテ一面ハ府縣知  
事ニ就キ被害ノ甚シキヲ懇訴シテ稅  
務管理局ニ交渉セシメ一面ハ郡長ニ  
就キ町村役場ハ罹災民ノ救助等ノ為  
メ各納稅人別ノ調査書ヲ調製スルノ  
暇ナキヲ以テ先ツ全町村ノ納額ニ對  
シテ猶豫アラコトヲ稅務署ニ懇議  
セシメ以テ荏苒第四期五期六期ニ及

フ而シテ稅務當局者ハ此懇議ニ應ス  
ルノ外何等ノ手段シ施スヘキノ途ア  
ラサルナリ

第二 斯ノ如ク一面ハ地租ノ徵收猶豫  
シ請ヒ一面ハ被害町村内ノ有志者ハ  
地租ノ免除シ請ハシカ為メ頻リニ  
同志者ヲ勸誘シテ運動シ為ス此運動  
ニ関スル費用ハ被害町村民ノ負擔ス  
ル所ナシハ有志者ハ其目的ヲ達スル  
ニ非サシハ止マサルナリ而シテ徵收  
猶豫ニ係ル地租額ノ過半ハ蓋ニ運動  
費トシテ町村民ノ驟出シ要スルニ至  
ルヘキナリ

第三 運動ノ結果ニ因リ地租特別處分  
法ノ公布アリタリト假定セシニ水害  
ノ地域ハ此時ニ至リ實際其痕跡ヲ留  
ムルニ非ス被害ノ當時町村カ調製セ  
シ地圖ハ水害ノ甚シキシ口實トシテ  
復旧工事ノ為メ國庫ノ補助ヲ請ハン  
トノ旨趣ヲ以テ調製セシ者ナレハ地  
租免除ニ付テハ絶ラ其用ヲ為サス際  
ニ其用ヲ為サ、ルノミナラス實際ノ  
被害ヨリモ更ニ廣大ナル面積ヲ畫キ  
タルノ疑ハシトセス故ニ稅務當局者  
ニ於テハ被害地ノ限畧ヲ定ムルノ困  
難アルノミナラス偶々被害ノ當時稅

務當局者カ實際ノ限畧ヲ踏査シ而シ  
テ特別處分法公布ノ後實地ノ調査ヲ  
為スニ當リ嚴正ニ地租免除ノ限畧ヲ  
定メント欲スト雖モ既ニ第一項及ニ  
第二項ニ詳述セシ事情アルカ為メニ  
一般ノ町村民ハ勿論有志者ニ於テモ  
亦當局者ノ調査ヲ以テ苛酷ナリト主  
張シ上級官廳ニ怨訴シテ當局者ヲ排  
斥セシコトヲ務ム而シテ其結果當局  
者ノ失敗ニ終ハラサハモノ強ニト稱  
ナリ

第四 前項ニ記載スルカ如ク若シ當局  
者ノ失敗ニ終ラシカ地租ノ免除額ハ

實際ノ被害地域ニ止マラス郷向キニ徵  
 收シ猶豫セシ全町村ノ地租ハ悉ク免  
 除シ蒙ルニ至ルハク實際ノ被害地ニ  
 此テ偶々徵收ノ猶豫ヲ請ハサルモノ  
 モ亦當然地租ノ免除ヲ蒙ルニ至ルハ  
 キヲ以テ一地方ニ對スル地租ノ免除  
 額ハ實ニ數十萬圓ニ上ルヘキナリ  
 右ハ國稅徵收法ノ不完ヨリ生スル弊害ナ  
 リ因テ之ニ對スル矯正方法ヲ按スルニ左  
 ノ二項ヲ以テ足シリトス  
 一 各稅務署ニ名寄帳ヲ備フルコト  
 二 備荒儲蓄法第六條第二号ヲ改正ス  
 ルコト

一 名寄帳

名寄帳ハ地目別ニテ各納稅人ノ所有地毎  
 筆ノ地租納額ヲ列記シテ其計ヲ付スル者  
 ニシテ徵稅臺帳トモ稱スルヲ得ヘシ市役  
 所町村役場ニハ名寄帳ノ備アリト雖氏稅  
 務署ニ於テハ其備ナシ  
 地租ノ對人稅ニシテ對物稅ニ非ス營業稅  
 施行後ノ今日ニ於テハ地租ハ營業稅ニ對  
 シテハ農業稅トモ稱スルヲ得ヘシ今此農  
 業稅ナル地租カ市町村ノ總額ニ因リテ徵  
 收セラレ而シテ稅務當局者ハ絶テ其内訳  
 ヲ知悉セストセハ其徵收方法ノ如何ニ紛  
 雜ナルヤシ想像スルコトヲ得ヘキナリ因

テ左ニ名寄帳ヲ備ヘサル可ラサル理由ヲ  
列記ス

(一) 現今ノ制ニ依リ市町村ノ名寄帳ノ  
ミニ依頼シ徵稅スルトキハ徵稅主管  
廳ニ於テハ各人ノ納額ヲ知ル能ハス  
シテ納額通知書(市町村ニ對シテ發ス  
ルモノ)ハ法律ニ據ル毎納期ノ相當額  
ヲ指定スルコトヲ得ス

(二) 稅務局署ニ於テハ直接市町村ヲ監  
督スル能ハサルヲ以テ地租徵收ノ基  
本ナル名寄帳ノ如キハ漸次整理ヲ疎  
ニシ納稅者ニ於テハ正數以外ノ金員  
ヲ徵收セウル、場合アルモ徵稅主管

廳ハ市町村ニ就カサレハ之ヲ知ルノ  
途ナシ

(三) 滯納處分ハ市町村ノ報告ニヨリ始  
メテ其納人及納金額ヲ知ルモノナル  
ニ市町村名寄帳ノ整理前述ノ如クナ  
ルヲ以テ往々處分ニ臨ミテ其誤謬ヲ  
發見シ處分ノ取消ヲ為サ、ルヲ得サ  
ルノ場合アリ是レ大ニ納稅者ノ權利  
ニ害ス

(四) 國稅徵收法第四條ニハ國稅先取ノ  
規定アルモ地租ニ就テハ稅務署ニ於  
テ其納人及納金額ヲ知ル能ハサルヲ  
以テ先取權ヲ完全ニ行使スル能ハス



(五) 民事訴訟法第六百五十四條ニ依リ  
裁判所ヨリ債權ノ有無及限度申出ノ  
催告シ受ケルモ之カ主管廳ナシ  
署ハ市役所町村役場ヲ經由スルニ非  
サレハ之ヲ知ル能ハス

若シ夫レ稅務署ニ名寄帳ノ備アリトセシ  
カ地租ノ徵收上便宜シ得ルノコトナラズ水  
害又ハ震災アル毎ニ神速ニ被害ノ地域シ  
調査スルコトヲ得而シテ地租徵收ノ猶豫  
シ為シ及ヒ特別處分法ノ公布アルニ當リ  
地租ノ免除シ為ス等事務ノ處辨上便宜ヲ  
得ルコト甚少ニ非サルヘキヲ信ス今水害  
又ハ震災アルニ當リ地租ノ徵收ヲ猶豫ス

ルヨリ特別處分法ニ依リ地租ヲ免除スル  
ニ至ルマテノ順序ヲ列記スルコト左ノ如  
シ

- (一) 震災又ハ水害アル毎ニ稅務署員ヲ  
派遣シ地圖ニ照シテ被害地ノ區域ヲ  
調査セシム
- (二) 既ニ被害地ノ區域ヲ知悉スルニ由  
リ其區域内ニ在ル田畑ノ所有者ノ誰  
タムヤハ土地台帳及ヒ名寄帳ニ照合  
シテ知悉スルコトヲ得
- (三) 稅務署者ニ於テハ前項ノ調査ニ依リ  
被害地域内ノ土地所有者ハ誰ナルヤ  
ヲ知悉スルカ故地租ノ納期ニ際シテハ

被害地域ヲ除ク外ノ田畑等ニ對スル  
納税額ヲ納税人別ニ市役所村役  
場ニ通知シ被害地ニ就テ地主ノ申  
請ヲ俟テ地租ノ徵收シ猶豫スルコト  
シ得

(四) 若シ特別處分法ノ公布ニ依リ地租  
ノ免除シ為スヘキシ要セハ地租ノ猶  
豫額ハ其儘ニテ免除額ト為スヲ得一  
キカ故官民ノ手數ヲ省クコト實ニ大  
ナリトス

(五) 従来地租特別處分法ニ依リ地租ノ  
免除ヲ為スノ手續ハ先ツ人民ヨリ申  
請書ヲ提出セシメ其提出ヲ終ルヲ俟

テ實地ニ就キ被害地域ノ調査ヲ為シ  
以テ地租ノ免否ヲ決ス其免除スヘキ  
者ニ就テハ地番及別地價地租額ヲ土  
地台帳ニ照シテ調査シ仍チ免租額ノ  
合計ヲ付記シテ稅務管理局ニ進達ス  
管理局ニ於テハ一應之ヲ點檢シ其免  
除額ニ就テ本省ノ指揮ヲ請ヒ其許  
可ヲ俟テ指令ス其間ニ要スル手數ト  
經費トハ實ニ尠少ニ非サハナリ現ニ  
今回新潟稅務管理局ヨリ調査費トシ  
テ本省へ請求セシモノ旅費及ヒ雇員  
給ニテ三千餘円ニ上レリ然レモ名寄  
帳ノ備アルトキハ其經費ハ従前ニ比

スレハ十分ノ九ヲ減スルコトヲ得ヘ  
キナリ

今備荒儲蓄法第六條第二号ノ改正ヲ要ス  
ル理由ヲ陳述セシニ従前ノ法ニ依リハ地  
租ノ貸共又ハ補助ハ土地家屋ヲ賣却スル  
ニ非サレハ地租ヲ納ムルコト能ハスト認  
ムル者ニ限リ故ニ府縣ハ概ネ内規ヲ設  
ケテ地租ノ貸共又ハ補助ヲ受クヘキ納税  
人ノ資格ヲ限定シ尙ホ各納人ニ就キ資産  
ノ多寡ヲ調査スルヲ必要トセリ然レ其  
調査タル實ニ容易ノ業ニ非ス市役所町村  
役場及警察署、調査ノ外ニ郡役所ノ調査  
ヲ要シ調査ニ宜ムルニ調査ヲ以テシ終ニ

府縣參事會ノ議決ニ依リ府縣知事之ヲ執  
行ス而シテ其金額ニ問ハ一人ニ付キ僅  
々五六円ニ過キス其調査ヲ要スルコト此  
ノ如ク甚シキ所以ノ者ハ法文ノ意義漠然  
トシテ決定ノ意ヲ示サ、ルニ依リ凡人  
ノ資産ハ外部ヨリ其多寡ヲ推測スルコト  
ヲ得ヘキナリ直接税法ニ依リ納税額ノ調  
査益々密ナルニ隨ヒ各人ノ資産ノ多寡ヲ  
推測スルコト益々密ナルニ至ル今農民ノ  
如キハ土地及其收穫ヲ以テ其資産ヲ形成  
スルモノナリ故ニ納税額ノ多寡ハ實ニ彼  
等ノ資産ヲ推測スルニ足ルヘキ標準ナ  
リトス因テ備荒儲蓄法第六條第二号ヲ左

ノ如ク改正セシムコトヲ要ス

一 地租ノ貸與

(イ) 被害地ノ地租ノ貸與ハ現ニ被害

地域内ニ田畑若ハ宅地ヲ所有シ其

納租額カ十五田ニ滿タサル場合ニ

於テ之ヲ受クルコトヲ得

二 地租ノ補助

(ロ) 被害地ノ地租ノ補助ハ現ニ被害

地域内ニ田畑若ハ宅地ヲ所有シ其

納租額カ廿田五拾錢ニ滿タサル場

合ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得

三 左ノ場合ニ於テハ地租ノ貸與又ハ

補助ヲ受クルコトヲ得ス

(イ) 被害地域外ニ於テ現ニ土地ヲ所  
有シ之ニ因リ收穫ヲ得又ハ利益ヲ

收ムルノ事實アルトキ

(ロ) 被害ノ年ヨリ起算シテ其前三ヶ

年内ニ所得税ヲ納メタル事實アル

トキ

而シテ地租ノ貸與又ハ補助ヲ為スニ付キ

右ノ標準ヲ限度ト為シ仍ホ市町村参事會

ノ意見ヲ聞キ府縣参事會ノ議決ニ依リ其

請ヲ許スコト、為スヘシ其市町村参事會

ノ意見ヲ聞クヲ要スル所以ノモノハ他ニ

非ス市町村ハ納税人ニ直接シテ其資産ノ

多寡ヲ其人ノ收入ノ上ニ就テノミナラス

支出ノ上ニ就テモ亦之ヲ知悉スルカ故ニ  
 若シ其人ノ資産カ法律上ノ限度ニ超コル  
 コトヲ知ルトキハ意見書ニ其旨ヲ附記シ  
 テ縣參事會ニ提出シ縣參事會ハ官廳其他  
 ニ照會シテ調査スルコトヲ得ルノ便宜シ  
 共ヘンカ為メナリ  
 右ノ如ク一面ハ被害人民ノ地租徴收ヲ猶  
 豫ニ政府カ被害人民ニ對シテ寛大ノ處分  
 ヲ為スノ意ヲ示シ一面ハ備荒儲蓄法ニ依  
 リ實際ノ窮民ニ對シテ地租ノ貸貸又ハ補  
 助ヲ為スコトヲ得セシメハ剩ス所ハ現ニ  
 地租ノ徴收ヲ猶豫セシ者ノ中ニ付キ多少  
 ノ資産アル者ノ處分方ニ過キサルナリ而

シテ國稅徴收法ニ依ル地租ノ徴收猶豫ハ  
 豫メ其期限ヲ設クルヲ要スルカ故ニ若シ  
 其期限ニ至ルトキハ法律ノ命スル所ニ從  
 ヒ直ニ徴收スルコトヲ得ヘシ然レ其被  
 害カ實ニ政治的道義心ヲ喚起スルニ足ル  
 ハキ慘狀ヲ呈スル場合ナルトキハ政府ハ  
 自ラ罹災地々租特別處分法案ヲ議會ニ提  
 出し以テ國民ノ信頼ヲ維クニ足ルヘシ此  
 場合ニ於テ地租ノ免除豫算額ハ前ニ記ス  
 ル所ノ方法ニ依リ厘毛ノ差異ヲ觀ルニ至  
 ラスシテ決定スルヲ得ヘク財政ノ鞏固ハ  
 之ニ賴リテ維持スルコトヲ得ヘキナリ名  
 寄帳調製ニ関スル費用ノ概算ハ別紙ニ記

載セリ

地租名寄帳調製費

臨時費

一金貳拾九万五千四百參拾六圓貳拾參錢弍厘

名寄帳新調費

内訳

金五万九百參拾七圓貳拾錢弍厘

用紙代

但名寄帳ハ一枚ニ付拾筆ヲ記入ス

ルノ式トナシ多數ノ土地ヲ所有ス

スルモノハ一枚ニ十筆ヲ記入シ

得僅少ノ土地ヲ所有スルモノハ

一二筆ニ止マルヲ以テ一枚ニ記

入スハキ平均數ハ六筆トシ總紙

數貳千參拾七万四千九百拾參枚

シ要シ一枚ノ代價貳厘五毛ノ用  
 紙ヲ使用スルコト、ニ計算セリ  
 金貳拾四万四千四百九拾九拾五錢 給料  
 但一人一日一百五拾筆仕上ケト  
 此延人員八百拾四万九千九百  
 六十五人日給一人參拾錢トシ計  
 算セリ

經常費

一金七万五千六百六拾五圓四拾貳錢四厘

名寄帳加除現計及納額通知要スル諸費

内譯

金五万四千七百拾八圓七拾七錢參厘

加除現計ニ要スル諸費

内

金參千五百五拾參圓拾七錢參厘

用紙代

但異動筆數六筆ニ付一枚ノ割ニ

ニ紙數百四拾貳万二千貳百六拾

九枚ヲ要シ用紙代價ハ前ニ全

シ

金五万千六百六拾五圓拾錢

給料

但一人一日平均五拾筆ノ加除現

計ヲナシ得ルトシ此延人員

拾七万五百五拾貳人一日々給

前ニ全シ

金貳万九百四拾六圓六拾五錢壹厘

納額通知ニ要スル諸費

内

金千百八拾五錢壹厘

用紙代

但通知書一枚ニ付廿五人分ヲ記

入ニ納税人員五百九拾貳万八

千貳百五拾八人ノ内三分ノ二

ハ第一二期ノ二回三分ノ一ハ

第一期ヨリ第六期迄ノ六回ト

シ此延納税人員千九百七拾六

万八百六拾人ニシテ紙數七拾

九万四百參拾四枚ヲ要シ用紙

一枚ノ代價ハ一厘五毛トシテ

計算セリ

金壹万九千七百六拾壹圓

給料

但一人一日ニ付納税者三百人分

ノ通知ヲナシ得ルコト、此

延人員六万五千八百七十人日

給前ニ全シ



調査資料

一 全國有租地總筆數壹億貳千貳百四十九萬九千四百八拾壹筆  
二十九年年度主稅局年報ニヨル

一 全國土地所有者總數五百九拾貳萬八千貳百五拾八人

本項ハ地租納稅人負ノ統計ニタルモノ  
ナリシ以テ廿六年一月中新潟縣ニ於テ取  
調一タル地租納稅人負ヲ基本トシテ  
全國ノ町村會攢拳権ヲ有スルモノハ  
比例ニヨリ算出セリ即左ノ如シ

全國町村會攢拳権ヲ有スルモノ(日本帝國憲法統計年鑑ニ見)

四百二萬五千七百九十九人

内新潟縣 十六萬五千六百二人

廿六年一月調新潟縣ニ於テ土地ヲ有スルモノ  
二十四万三千八百六十八人

一登記所ヨリ通知シ受ケル賣買其他異動筆數(一ケ  
年間分)六百五拾二万三千七百五十二筆

本項ハ新潟縣ニ於テ三十年中ノ通知受  
筆數四拾三万八百七十二筆ニ總筆數ニ比  
例シ更ニ全國總筆數ニ乘シタルモノナリ

一稅務署ニ於テ取扱フ土地異動筆數  
廿万三千八百五十九筆

但主稅局年報廿九年度分ニシテ

加二口合計筆數八百五拾二万七千六百一十一筆